

農地にくらす希少種

ミヤマシジミ



かつて普通種であったミヤマシジミも、現在では全国各地で絶滅し、ここ伊那谷でも産地はあともわずかとなっています。そんな中、農地景観に未だに多くの生息地が残る飯島町での研究結果を基に、本種を含む多様な生物の保全と営農活動との両立を可能とする方法とアイデアへと議論を展開していきたいと思えます。

▲コマツナギに吸蜜するミヤマシジミ



▶ミヤマシジミの幼虫の背中の蜜に群がるアリたち。幼虫はアリに外敵から身を守ってもらう



講師：出戸 秀典さん

(東京大学大学院)

日時：11月4日(月・祝)

午後1時30分～3時

場所：飯田市美術博物館講堂

聴講無料(申込不要) どなたでも参加できます

【講師紹介】

出戸 秀典(でとひでのり)さん。

1994年、石川県金沢市生まれ。東京大学大学院農学生命科学研究科 生物多様性科学研究室博士課程1年。日本の里地里山の景観やそこに暮らす多様な生物を守る研究がしたいとの思いからミヤマシジミの保全に関する研究をスタート。「人の営みと生き物たちのより良い関係を再考し、共存・共生する道を見出していくことを大きな目標に掲げ、日々研究に取り組んでいます」



飯田市美術博物館

〒395-0034 長野県飯田市追手町 2-655-7

TEL 0265-22-8118 FAX 0265-22-5252 <http://www.iida-museum.org/>